

日本の海岸線歩行報告書

' 23.02.09 8期 友松知宏

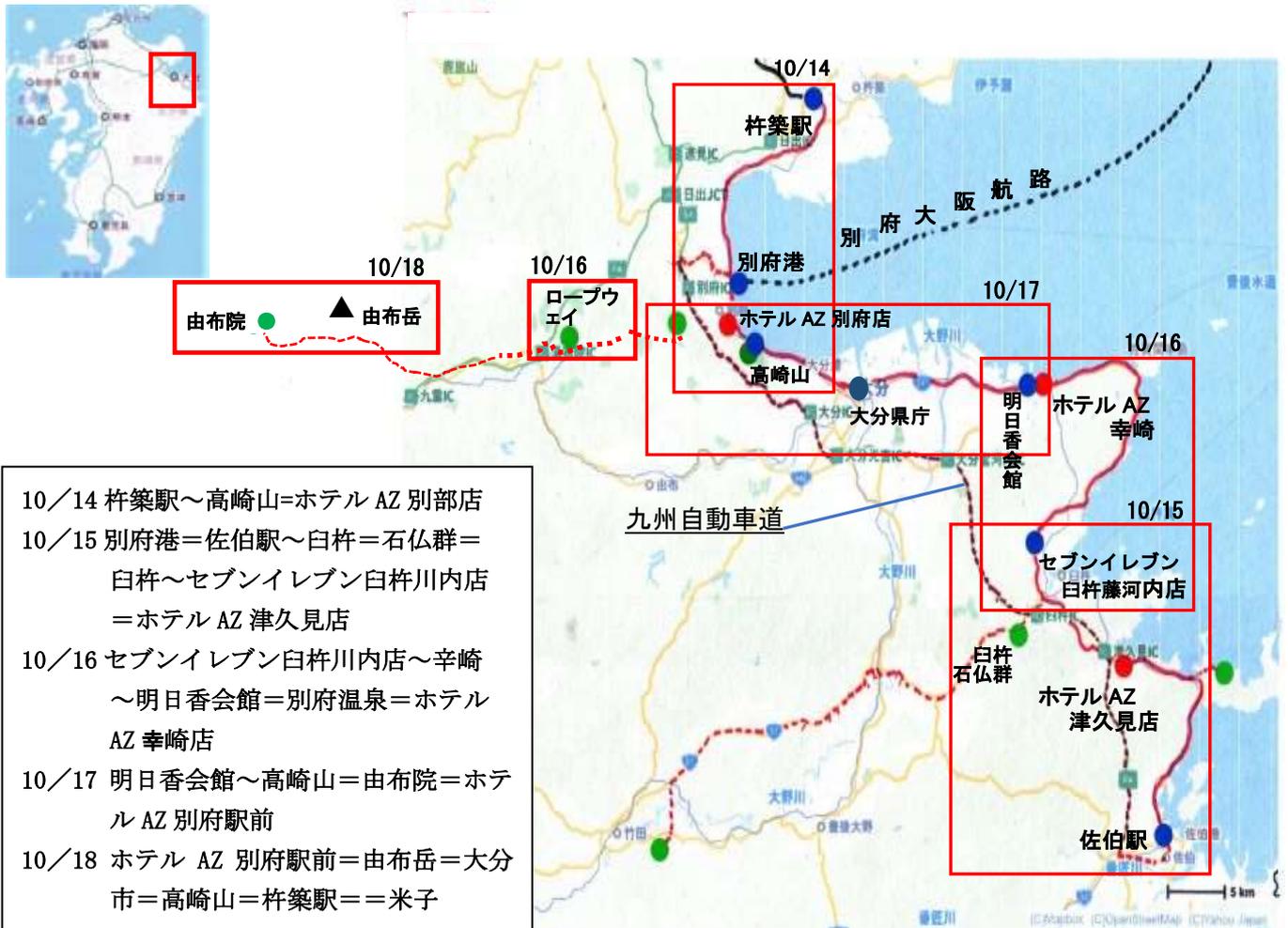
1. 計画の概要

ブロック名	九州-3 (杵築駅～佐伯駅)
歩行区間	大分県/JR 杵築駅 ～ 大分県/JR 佐伯駅
実施期間	令和 4 年 10 月 14 日 (金) ～ 10 月 18 日 (火)
歩行距離	128.2 Km
1人当費用概算	69千円

2. メンバー

役割分担	氏名 (年齢)	期	その他
1 リーダー・記録	友松知宏 (82 才)	8 期	090-7774-8559
2 会計	友松和子 (83 才)	妻	
3 保護者	植田洋子 (50 才)	長女	10 月 15 日 (土) ～16 日 (日) 参加

3. 地図



4. 歩行詳細

10月14日（金）晴れ

和子、知宏／米子 05：32 =（やくも2）=07：41
岡山 07：56 =（のぞみ75）=09：23 小倉 10：09 =
11：11 杵築駅着。11：25 同駅和子：歩行開始。迎え
の車で知宏：くにさきレンタカーへ。車借り入れ。
12：00 ローソン（相原店）で合流。ここから歩行開始
／車行を交互にリレー歩行。～13：25 マクドナルド日
出店～14：10 ひじガーデン～15：00 別府市公設市場入口。ここでトラブルが起きて、20分ロス。

中継点を別府市公設市場正門から入った、市場敷地内の駐車場と取り決めていたが、運転してきた和子は、入口の「関係者以外は入場禁止」の立て看板を見て、入口を素通りし、敷地のはずれにある空き地に車を置いて、徒歩で入口まで戻り、正門で知宏を待っていた。

知宏は、近道のつもりで、敷地の一番手前の通用口から敷地に入ったが、車は一番外れの敷地に置いたとの連絡を受け、裏門から出るつもりで正門を素通り。裏門は閉まっており、通り抜けできない。

今来た道を少し戻って、人目がないのを見定めて、身の丈ほどのフェンスを乗り越えて国道に降りた。車の置き場所を見つけて正門に戻り、15：30 和子と合流。
16：20 的ヶ浜公園（別府駅前）～17：05 山家～17：35 高崎山自然動物園前。17：50 知宏合流＝18：00 ホテル

・・・25.5 km

洋子：星田 18：18＝19：20 大阪港コスモスクエア 19：55＝サンフラワー号（夜行便）

10月15日（土）晴れ

07：50 別府港で合流。＝（九州自動車道／78km）＝佐伯駅 09：00～（洋子・和子・知宏の順にリレー）～09：30 海崎駅／駅舎も改札もない無人駅。～10：20 宮ノ内～11：00 浪多鼻～11：55 津井トンネル～12：45 新日見トンネル～15：26 パーラーVセブン白杵店（集合）。途中、白杵川の河原で石を拾っている母娘、その先では鋤簾（じょれん）で川底を掘り返している男がいた。メノウか翡翠も採っているのだろう。時間があれば、自分も河原に降りて拾うのだが・・・



杵築駅



佐伯駅



海崎駅（ホームしかない）



白杵川原で石を漁る人

=16:00 白杵石仏群（観光）



白杵磨崖仏は全4群61軀で構成され、そのうち59軀が国宝に指定されている。

伝説では、亡くなった娘の菩提を弔うために長者が彫らせたとされており、用明天皇が登場することから、6世紀後半と考えられる。しかし、実際の磨崖仏は、仏像の様式などから大部分は平安時代後期、一部は鎌倉時代の作と推定されている。

その後、山岳仏教の衰退と共に忘れ去られ、千年の風雨に曝され続けた。元々阿蘇山からの火砕流が溶結した凝灰岩に掘られた石仏は脆く、また参拝者によって自然にできた道が大雨の際は川に変わり石仏を削り取った。現在、多くの石仏の下半身が切り取られたように無くなっているのはそのためと考えられている。最も有名な古園石仏群の大日如来像の仏頭は、1993年に保存修復が完了するまでの間、仏体下の台座に置かれたままであった。（ウィキペディア）

=17:00 白杵駅~17:40 セブンイレブン藤河内店=18:19 ホテルAZ津久見店（チェックイン）

・・・32,7 km

10月16日（日）晴れ

ホテルAZ津久見店 07:35 出発=
08:00 セブンイレブン藤河内店~08:
15 佐志生小学校~09:55 九四フェ
リーターミナル~11:45 土岐屋神社



道端の柿を歩きながら頂く



明日香会館前

～12：15 明日香会館（王ノ瀬）＝別府温泉＝13：10 ロープウェイ
 乗り場＝（ロープウェイ）＝13：50 頂上駅～14：10 鶴見岳頂上（休憩）
 ～14：50 頂上駅＝（ロープウェイ）＝乗り場（物産館で地酒を買う）



鶴見岳山頂

鶴見岳の伝説

大分県の鶴見山と由布山そして宮崎県境の祖母山にまつわる伝説があります。山の険しさや姿かたちによって男山、女山と呼ばれることがありますが、鶴見山はそれはそれは美しい女山といわれています。

そんな鶴見山に多くの男山が思いを寄せるなかで、激しく恋を争ったのは、やさしく美男の由布山と、力が強く頼りになる祖母山です。

最後に鶴見山は由布山を選び、寄り添うようにそびえています。

その熱い仲によってふもとの別府や湯布院に温泉がこんこんと湧いています。

（ロープウェイ駅前の立て看板より）

15：20 別府温泉坊主地獄（見学）

坊主地獄

今から 521 年前に日向灘地震が発生しました。その際に現・天然坊主地獄の場所にあった延内寺という大きなお寺の地面が爆発。地が裂けて熱泥が噴出し、寺院は住職（円内坊）もろとも吹き飛びました。そこに生まれたのが『天然坊主地獄』。園内の一番奥にその爆発跡があり、当時の爆発がいかに大きかったかを知ることができます。（坊主地獄 HP より）



＝16：40 別府温泉駅／ここで洋子は別れて、JR 小倉＝新大阪経由で星田＝妙見坂へ帰る。

＝18：00 ホテルA Z 幸崎店チェックイン。

・・・37.0 km

10月17日（月） 晴れ／くもり

07：30 ホテル AZ 幸崎店＝朝日香会館前 08：00 出発～09：30F マート高松店＝10：20 大分銀行
大分牧店～11：25NHK 会館～12：25 海岸線陸橋～13：30 高崎山動物園前（今回の歩行終点）
＝別府＝由布岳登山口＝
＝15：10 由布院ステンドグラス美術館



当館はヨーロッパの1800年代からのアンティークステンドグラスを展示した日本で初めてのステンドグラス美術館です。英国の佇まいを味わいながら、照明を通してステンドグラスをご覧いただくニールズハウスと数々の美しいステンドグラス・ウインドウをその内部に取り入れた聖ロバート教会の二棟から構成されています。それぞれの展示室でヨーロッパのステンドグラスを歴史的に地域別に紹介しています。また、外観の建材や家具調度品に至るまで厳選された英国直輸入のアンティークで装飾されています。（HPより）

＝16：30 フローラルヴィレッジ（見学）。

ハリー・ポッターの撮影地、イギリスのコッツウォルズを再現したアミューズメント施設。
ハリーポッターやピーターラビットを意識した建物は底が人の背丈ほどしかなく、さながらアリスの不思議の国である。
「ガラスノモリ」の店の前に、スバル360が置かれていた。



60年前に結婚して、共稼ぎのために買った車である。
何か、とんでもない昔にタイムスリップしたような錯覚に陥った。

＝19：00 ホテル AZ 別府店にチェックイン。

別府温泉はアメリカのイエローストンに次ぐ、世界最大



規模の湧出量を誇り、泉源の大半が汲み上げではなく、自噴で、街の到るところで蒸気を吹き上げている。 . . . 33.0 km

10月18日(月) くもり

07:30 ホテル出発=08:20 由布岳登山口
~09:10 休憩所/気温が下がり雨の気配が濃くなって来たので、下山する。頂上の写真だけでも撮りたかったが、霧雨状で見ること出来なかった



09:40 登山口出発=別府温泉=10:20 大分県立美術館(見学)。

由布岳登山口

折からコレクション展「生命の輝きを求めて」があり、生誕110年を迎える、別府出身の高山辰雄を中心に「生きるとは何か」をテーマに展示されていた。

高山辰雄は日本画家であるが、日本画では例のない茶系の岩絵の具を厚塗りし、かなりの迫力である。展示室の係員に質問すると、女性の学芸員が来てくれて、一つ一つ説明してくれた。

高山辰雄は東京美術学校(現東京芸大)の日本画科を卒業したが、ゴーギャンの影響を受けて、独自の境地を拓き、東山魁夷、杉山寧等と共に「日展三山」と称された。

11:30 来る途中に見かけた、銅像群を觀てまわる。

銅像は県庁・大分城跡公園周囲の街の々におかれて、聖フランシスコ・ザビエルやローマに派遣された伊東ドン・マンショ像、西洋医学発祥



フランシスコ・ザビエル像



西洋医学発祥の地頭彰碑

の地像など、切支丹と深い関係を持った市の歴史を物語っている。美術館と言ひ、銅像と言ひ、歴史や文化を大切にす市民性を感じた。

12:50 高崎山自然動物園



終戦当時、200頭程度にまで増えて農作物への被害が深刻となったため、狩猟などによるニホ

ンザルの駆除が試みられたが失敗。これを耳にした当時の大分市長上田保が駆除に代りに、餌付けし観光資源として利用しようとしたのが高崎山自然動物園の始まりである。

1952年餌付けを開始。翌1953年開園した。宮崎県の幸島と並んで「日本のサル学発祥の地」とも言われ、「ボス猿」という呼称を日本で最初に使ったとされる。

15:30＝（東九州自動車道 40 km）＝16:10 杵築駅＝16:34＝小倉＝岡山＝22:20 米子（帰宅）

5. 会 計

	知宏・和子	洋子	合 計
交通費			
JR（米子＝杵築）	55,580_		55,580_
大阪＝別府		31,900_	31,900_
レンタカー	27,667_	5,333_	32,000_
ガソリン	4,508_	902_	5,410_
通行税	1,867_	933_	2,800_
タクシー	3,000_		3,000_
小計	90,755_	39,068_	129,823_
宿泊費			
ホテル宿泊費	46,633_	9,326_	55,959_
食事等	4,355_	871_	5,226_
小計	50,988_	10,197_	61,185_
その他			
入場料、土産	15,384_		15,384_
合 計	157,127_	49,265_	206,392_
		一人当り	69,000_

6. 感 想

歩く旅の参加も3回目になる。計画地図を見ながら、歩くルートをなぞり、そこで出会う景色や地元の人を思い描く。

大阪から別府へのフェリー『サンフラワー号』では、船上から明石海峡大橋の夜景が気持ちを昂らせた。今回のルートはアップダウンも少なく、佐伯湾、津久見湾、臼杵湾からの風と波音が贅沢な秋の心地よい時間であった。

途中立ち寄った国宝臼杵石仏群はその一彫々々に込められた祈りの思いと、表情に魅了され、いにしえの人々の豊かさや、その時代の生活に想いを馳せた。

この旅のこの先に、今から心が躍る。この先にはいったいどのような冒険と感動が待っているのだろうか。旅を終えたその瞬間から、次が始まっているのだ。（洋子）

前回に続き、今回の歩行にも、洋子が二日間参加してくれたので、短期間に 128 km を消化することが出来た。夫婦あわせて 165 歳だけであつたら、80 km がよい処である。たいへん感謝している。

その二日間における観光／臼杵石仏群、鶴見岳山頂、別府坊主地獄もそれぞれによかつたが、その後を巡った湯布院ステンドグラス美術館、フローラルヴィレッジ、大分県立美術館、大分県庁界隈の青銅彫刻群、高崎山自然動物園には、3 人で行けたらと心が残つた。出来たら、この後の歩行で、3 人、出来たら孫たちも一緒に、今一度訪ねたいと思っている。（知宏）

以上